

生駒市市政顧問が従事した職務の遂行に係る情報

議 題	商工観光及びDX
日 時	令和 5 年 1 2 月 2 7 日 (水) 13:00 ~ 17:30
場 所	商工観光：生駒山上周辺の現地視察（生駒山ブランド化関連） DX：特別会議室
出 席 者	藤沢市政顧問 小紫市長、山本副市長 領家地域活力創生部長 増田企画政策課企画官 （商工観光のみ）岸本商工観光課長 （DXのみ）森本CDO補佐官、森デジタル推進課長、岡田デジタル推進課課長補佐、立田スマートシティ推進室長
主な意見 （概要）	商工観光（13:00～15:45） ●生駒山ブランド化に係る現地視察を実施。（生駒山上遊園地周辺） DX（15:45～17:30） ● 関係人口の取組における課題について ・ 市外の人との繋がりづくりとしては、2つのグループがある。元々生駒市に縁があった人（特に子ども時代に住んでいた人）と生駒市と縁はないが、何かをきっかけとして興味を持ってくれた人。 ・ 元々生駒市に縁があった人は、幼少期から中学生時代くらいの思い出を想起させる取組をすることで、その取組に参加したり、応援（お金を出すことも含む）したりする。さらに、それを体験するために帰省したくなるような取組が大切。子ども時代の一番の思い出をアンケートしてみるなど、もう少し具体的なニーズを探る必要がある。 ・ 生駒市と縁がない人の場合は、興味を持ってくれそうなテーマを絞り、それを核として取組を進めると、それに貢献したい人が集まる。新潟県山古志村では錦鯉が有名で、その村の取組を応援できる仕組みとして、山古志 DAO という取組を行っている。

● 職員の人材育成について

- ・ 人口減少に伴って、今後、職員数が減少する懸念については、少ない人員で行政機能を維持するには、どのような仕組みが必要かを今の若い世代の職員を含め、主体的に考えていく必要がある。
- ・ 静岡銀行の取組が参考になる。
- ・ 業務改革を行うには、現場業務に詳しい人、ITに詳しい人、業務改革プロセスに詳しい人の3パターンの人材が必要となる。人事制度とセットで進める必要があり、組織の目標と働く人の自己実現が一致するようなポジティブな取組にしていくのがよい。

● シニア層へのデジタル化の浸透について

- ・ シニア層にオンライン手続き等のデジタル利用を促すには、必然性の視点でみた行動喚起がポイントではないか。